

代官山MEDICAL 卒業生の勉強法 ②



●丹治芳明君による化学の学習の進め方

東京慈恵会医科大学 3年 丹治芳明君

Chemistry

1. 4月の化学の学力状況

受験で必要な4科目の中で、化学が最も得意科目であり、高校3年生の受験の段階である程度の自信があった。しかし、現役生のときの受験本番でも失敗はしなかったものの、他の科目の失敗を挽回するほどの点数をとることはできなかった。化学のなかでも得意な単元、苦手な単元があり、安定して問題を解くことができなかった。具体的には、理論Ⅰ・有機Ⅰ・有機Ⅱ・無機の標準問題は得意だったが、理論Ⅱの気体や化学平衡の発展問題、有機の発展問題、無機と理論の融合問題などは、演習時間が足りず、とても苦手だった。それらの問題を解けるようにし、また、基礎的な知識で漏れないように勉強し、入試において化学は受験者の中でトップレベルになることを目標とした。

2. 代官山MEDICALの授業に対する取り組み方

夏の講習前までは、基礎的な内容の授業のため、全範囲の知識を漏らすことなく覚えるように努力した。基礎には自信があったが、知らない知識も多くあったため、発展的な内容の勉強はせずに、土台作りに専念した。授業中により深い知識を質問することで、新たな知識を増やすことが出来た。夏の講習の途中で全範囲の基礎固めが終了したため、そこから発展的な内容の勉強を始めた。HIGH LEVEL 化学の授業はマンツーマンで受講できたため、時間をかけて考えてきた難しい問題を、自分がつまんだところを中心に解説してもらうことができ、より多くの問題の解説をしてもらうことができた。授業の予習の宿題は、入試問題を解く気持ちで時間をかけて取り組んだ。知識タイプの問題はしっかりと復習で暗記し、解くタイプ問題はその問題の類題を解いた。

3. 学習に使った教材

①代官山MEDICALのテキスト、先生方のプリント

医学部入試における典型問題や、医学部特有の問題・知識が載っているため、医学部の入試問題に馴れ、独特の問題を解くことができるようになった。また、先生方が用意したプリントを解くことで、知識がより深く、安定したものにすることができ、より他の受験者と差をつけることができるようになった。

②実力強化問題集(文英堂)

典型的な問題を演習するために、浪人が決まった春から1学期の最初まで用いた。基礎的な問題が多いため、基礎を定着させることができた。

③実戦 化学Ⅰ・Ⅱ重要問題集(教研出版)

入試レベルの基礎～標準となる問題が多いため、夏前まで使用した。苦手な分野は何度も演習を繰り返した。一般大学の入試問題が多く載っているため、医学部入試の基礎となる知識、解法を身に付けた。

④化学Ⅰ・Ⅱの新演習(三省堂)

理論の演習をするために理論の範囲のみ使用した。問題はとても難しいものが多く、1周目はほぼ歯が立たなかったが、先生方に何度も質問し、2周目は解説を理解できる程度になった。3周目になって、ほぼすべての問題と戦えるようになり、わからない部分は何度も質問した。そして4周目になってようやくだいたいの問題を完答できるようになった。しかし、溶液に関する問題や、気体に関する問題は完答できるようにならず、繰り返し解いた。夏から始め、受験前には理論の問題は全て暗記しているくらいまでになった。

⑤赤本(教学社)

本番と同じ時間で解ききる練習や、入試本番において初見の問題を可能な限り減らすために用いた。具体的には、東京慈恵会医科大学、日本医科大学、順天堂大学、札幌医科大学、大阪大学、東北大学などの入試問題を使用した。

4. まとめ

代官山MEDICALのテキストと新演習を解き続けたことで、化学には絶対的な自信を持つことができるようになったうえ、模試やMonthlyTestでも好成績を維持することができ、入試当日は自分が解けない問題は大部分の人も解けないだろうと思えるようになった。化学は勉強した分成長する科目で、安定して点数をとれる科目なので、医学部特有の問題を解けるようにし、基礎～標準、発展の知識を身につければ入試において他の科目を引っ張るような武器になると思う。